

# 光葉ワーキングクラブメールマガジン

<2016年7月号>

112号 2016.07.01 配信

梅雨明けが待たれる頃となりました。来月はいよいよ南米初のオリンピックがブラジル・リオデジャネイロで開催されます。

本学からは、クレール射撃の石原奈央子さん（1997年日本文化史学科卒）とパラリンピック水泳100mバタフライの森下友紀さん（福祉社会学科2年在学）が出場されます。

大きな声援を送りましょう！！

## ■ 同窓会だより

### ● 光葉同窓会幹事会 開催報告

6月18日（土）新幹事を迎え153名の参加。坂東眞理子理事長、金子朝子学長、藤島喜嗣アドミッション部長、森ます美キャリア支援部長から学園の近況をお話し頂きました。

新しく会員になられた方の初々しい挨拶に先輩からの大きな拍手がありました。人見圓吉先生の晩年に収録された「開講の詞」をお聞きし、先生のお声に会場全体が感動に包まれたひと時でした。クラス会の情報交換では年代を超えて会員同士の交流ができました。生田流箏曲部の学生の演奏もありました。

● 光葉同窓会奨学金授与式を7月8日（金）に行います。

## ■ 学園だより

### ● 【女性教養講座】 7月6日（水） 15：30 開演

「女性と健康 一幸せな生涯への知恵」 天野 恵子氏（循環器内科・女性外来担当医師）

※問い合わせ先：光葉同窓会 [Tel:03-3421-7713](tel:03-3421-7713)

### ● 女性文化研究会】 第151回 女性文化研究所研究会

7月15日（金） 16：30～18：00 大学1号館2階 会議室A

「変わる家族やカップルのすがた 一日仏比較の視点から」

吉川 佳英子氏（女性文化研究所特別研究員 京都造形芸術大学准教授）

無料・申し込み不要・どなたでもご参加いただけます。

## 夏の食中毒に注意！

これから蒸し暑い日が続くようになり、人間はぐったりしてしまいますが、0157やサルモネラ菌などの食中毒菌は生き生きとしています。細菌の増殖にはうってつけの環境です。

夏によく食べる代表的なメニューでの対処法を紹介します。

大勢で集まることやキャンプなどの多いこの時期は、BBQや焼き肉が大人気。この場合、細菌に汚染されている可能性が高いのはお肉です。お肉についている細菌は、加熱さえしっかりすれば安全に食べられます。そして、焼く前のお肉が他の食材や食器につかないようにすることが重要です。そのため生肉を掴む専用トングやお箸は、焼き上がったものを取るときと使い分けましょう。

大人は、子供たちが生焼けのお肉を食べたりしていないか、見てあげると安心です。

※食中毒を防ぐ三原則

細菌を ①つけない ②ふやさない ③やっつける

## ■広げよう光の葉

瀬川 知恵子さん

1972年 文家政学部 英米文学科卒

(東京都西北6区支部)

### 『私の職場』

私の大学時代、それは学生運動が最も盛んな時期で何もかもが混沌としていた。男子系高校で危なかしい発言をしていた私が昭和女子大学に進学することになると、両親は喜んだ。

英米文学科で学んだ私は、英語を使った職場へと意気込んで、スウェーデンの大型機械商社、ガデリウスの輸出部に入社できた。男女差がない北欧の会社で、給料も男女平等だった。英語がなければ、毎日が夢のように楽しい会社生活だった。

大手証券会社に勤務する夫と結婚したのは26歳。結婚と同時に、赴任先へ伴って、香港、ハワイ、ニューヨーク、シンガポール、ロンドン、ブダペストと、3人の子供を抱えて世界を回った。そこでは想像もしなかった日本侍会社の上下関係、日本人のムラビト的行動、狭い日本人の人間関係に疲れ果てることになる。本音は言えない。弱音は吐けない。時折、日本から母の応援を頼まなければ、とてもやっていけなかった。

当時、いつも私を勇気づけたものがある。それは、なんと昭和女子大学の校歌であった。「あらゆるものを育みて、育て上げしは女性なり。女性文化の帆を張りて、海路遙けく漕ぎ出たり。」何度も何度も声を張り上げて歌い、子供たちのためにも、自分を振るい立たせた。

16年余が過ぎて、46歳に日本帰国。ひょんなことで、早稲田大学の研究室で教授が秘書を探していると紹介された。タイプライターしか打てなかった私が理工学部の半導体工学研究室で働くことになった。

初日、パソコンの前でまったく手も足も出ない。目の前が真っ暗になった。どうして私が雇われたのか。考える暇もなかった。その夜から、全給料を注いで、パソコン教室に通い出す。研究室の学生に訊きながら、教室で習いながら、仕事をこなす毎日が始まった。窮すれば通ず。長い目で見ていただいた教授のお蔭で、私は、半導体工学研究室から国立医療センター内研究室へ、さらに物理化学研究科へ、商学研究科へと早稲田大学内で必要とされ続け、一日の空きもないまま、今、教授5人目、21年目の研究室秘書生活を送っている。67歳にもなって、まだ雇われている理由はわからないが、とにかく、ちゃっかり、楽しく仕事をさせていただいているのである。

教授が仕事をしやすいように、自分ができるお手伝いを、いつも形にして工夫し、実行してきた。何でも、私のすることを温かく受け止め、認めてくれる教授達には、心から感謝している。

思えば、昭和女子大学の教育方針である女性の品格、思いやり、礼儀、そして自立といったものが、実社会では、実はとても必要なもので、その教育が、実質的に受け入れられたということではないだろうか。

人生を楽しくしたければ、周囲の人たちの幸せを願い、考えられる総てを投げ打って、仕事をすればいい。周囲が満足して豊かな気持ちになれば、自分にもきっと、その幸せが返ってくる気がする。

高年齢の人生も、また楽しからずや。

昭和女子大学の教育に乾杯！

End